

K251 は ディヴェルティメント 第 11 番 ニ長調 です。1776 年 7 月 姉ナンネルの第 25 回の誕生日 (7 月 26 日) を祝って作曲されました。アレグロ・モルト、メヌエット、アンダンティーノ、メヌエット、ロンド・アレグロ・アッサイ、マーチ・フランス風 の全 6 楽章 20 数分の演奏時間で オーボエ 1 本、ホルン 2 本、弦 4 部 (ヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バス) という、簡潔な編成よりなる、とても軽快な曲となっています。



続く K252, K253, K254 もディヴェルティメントです。

K252 (ディヴェルティメント第 12 番 変ホ長調) は、オーボエ、ホルン、ファゴット各 2 本という、珍しい編成の 3 楽章よりなる佳曲で、1776 年 [Nannerl \(1751 - 1829\)](#) 1 月にザルツブルクで、大司教宮廷の食卓音楽として作曲されたもので、ソナタ形式の楽章はなく、バロック的な組曲に近い 10 分程度の BGM にふさわしい優雅な曲です。

K253 (ディヴェルティメント第 13 番 ヘ長調) も K252 と同じ編成・目的で、1776 年 8 月にザルツブルクで作曲され、ソナタ形式の楽章はなく、バロック的な組曲に近く、第 1 楽章は主題と 6 つの変奏よりなる 10 分近く、全体は 3 楽章の 15 分足らずの曲です。

K254 (ディヴェルティメント 変ロ長調) は、ピアノ、ヴァイオリン、チェロという、まさにピアノ三重奏の編成であり、ピアノ三重奏曲「ディヴェルティメント」変ロ長調 K254 と、ピアノ三重奏曲に分類されることも多い。前曲と同じく 1776 年 8 月にザルツブルクで作曲された、モーツァルト最初のピアノ三重奏曲でもあります。20 分位の充実した作品です。まだ、ピアノが指導的な役割で、ヴァイオリンは助奏的で、チェロはピアノの低音部と一緒に弾くにすぎなのですが、前の 2 曲とは比べることができないほど、聴く者に訴えてきます。

K255 は、レシタティーボとアリア「幸いの亡霊よ・・・別れの時が来た」で、オーケストラ伴奏でアルトが歌うもので、1776 年 9 月ザルツブルクで、イタリアのカストラート、フォルティーニのために作曲された 8 分余りの、コンサートアリアです。歌詞はモンテラーリのオペラ「アルサーチェ」からとられています。

K256 は、ブッフォ・アリア「クラリーチェは、いとしのわが妻に」で、前曲と同じく 1776 年 9 月ザルツブルクで、テノール歌手パルミーニのために作曲されたもので、ピッチーニのオペラブッファ「運のよいかげごと師」から採られたものと思われます。テンポの良い 2 分足らずの小品です。

K257 は、ミサ「クレド・ミサ」ハ長調です。1776 年 11 月にザルツブルクで作曲され、この後 12 月には、さらに 2 曲のミサ・プレヴィスも同じように作曲されました。この曲は、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニヌスデイよりなり、特に 3 曲目では、クレド【Credo】の語が出るたびに 4 回連呼されることから「クレド・ミサ」と呼ばれています。オーボエ、トランペット各 2、トロンボーン 3、ティンパニ、ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス・オルガンの低音部と 4 部の独唱・合唱よりなる編成で 30 分程で演奏されます。

K258 は、ミサ・プレヴィス ハ長調で、ヨゼフ・シュパウア伯のために作曲されたといわれ、「シュパウア・ミサ」と呼ばれます。彼の聖職授任式で、トランペット 2 本、ティンパニ、ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス・オルガンの低音部と 4 部の独唱・合唱よりなる編成で 1776 年 12 月にザルツブルクで演奏されました。キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥ

ス、アニュスデイよりなり 20 分程で演奏されます。

K259 は、ミサ・プレヴィス「オルガン・ミサ」ハ長調で、前曲と同じく 1776 年 12 月にザルトツブルクで演奏されました。ベネディクトゥスにオルガン・ソロがあるところから、この「オルガン・ミサ」の名が付くようになりました。、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュスデイよりなり、演奏時間は 15 分です。

K260 は、奉納唱「来たれもろもろの民」という、5 分前後の作品で、1776 年ザルトツブルクで作曲されました。ヴァイオリン 2 部と、チェロ・バス・オルガンの低音部に乗って、2 組の 4 部合唱により元気よく歌われます。

K261 は、ヴァイオリンと管弦楽のためのアダージョ ホ長調 です。1776 年末にザルトツブルクで作曲され、フルート、ホルン各 2 本とヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バスという管弦楽をバックに独奏ヴァイオリンが朗々と歌う、とても優雅で美しい作品です。K219 ヴァイオリン協奏曲 第 5 番 の第 2 楽章の別稿として作曲されたと考えられていますが、現在では、独立した作品として演奏されることがほとんどと思われます。

K262 は、ミサ ロンガ ハ長調 です。1776 年 4・5 月の作で、オーボエ、ホルン、トランペット、トロンボーン各 2 本、ティンパニ と ヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バス・オルガンという管弦楽をバックに 4 人の独唱と合唱が潑瀾と歌います。キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュスデイの 6 部からなり、演奏時間 30 分程の充実した作品です。

K263 は、教会ソナタ ハ長調 です。1776 年 12 月にザルトツブルクで、トランペット 2 本とヴァイオリン 2 部、オルガン、チェロ・バスの編成で作曲されました 4 分程の作品です。

K264 は、ドゼードの「眠れるリズン」の主題による 9 つの変奏曲 ハ長調で、1778 年の夏にパリで作曲された 15 分程の曲です。同じころに作曲された 4 曲の変奏曲の最後のものですが、最初は 1776 年の作とみなされたため、K 番号が他よりも若くなっています。

K265 は、「ああ、お母さん、あなたに申しませう」による 12 の変奏曲 ハ長調（キラキラ星変奏曲）で、前述と同じく、1778 年パリ滞在中に作曲された、有名な旋律に基づく親しみやすい変奏曲で、実際に演奏される機会も多く、7 年近く前の当会主催の第 102 回コンサートでも、今や人気沸騰中の 務川慧悟 さんがしつとりと演奏してくれたのが印象に残っています。

K266 は、弦楽三重奏曲 変ロ長調 です。2 本のヴァイオリンとバス（チェロ）で、アダージョとメヌエットの 2 楽章からなる 10 分余りの曲です。

K267 は、4 つのコントルダンス という、短い 4 曲より構成された全曲で 6 分程の小品です。オーボエ、ホルン各 2 本、ヴァイオリン 2 部、チェロ・バスの編成で演奏されます。1777 年の謝肉祭の頃にザルトツブルクで作曲されました。

K268 は、ヴァイオリン協奏曲 変ホ長調なのですが、現在では偽作説もいくつかあり、私の CD でも収録されていません。

名古屋オーケストラ協会主催 第 102 回コンサート

### ～務川慧悟 ピアノリサイタル～



**プロフィール**  
1994年12月10日生まれ、2016年、名古屋音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻に入学。名古屋音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2019年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻に入学。2022年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2023年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2024年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2025年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。

**務川 慧悟 KENJI MURAKAWA**  
1994年12月10日生まれ、2016年、名古屋音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻に入学。名古屋音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2019年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻に入学。2022年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2023年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2024年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2025年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。

ピアニスト 務川慧悟 は、東京音楽大学在学中に日本音楽コンクールで第 1 位を獲得。在学中からパリ国立高等音楽院に留学してさらなる研鑽を勉める。地元名古屋だけでなく、東京をベースとして広範囲の演奏活動。2022 年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2023 年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2024 年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。2025 年、東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽学専攻卒業。

平成 28 年 4 月 25 日 (月) 19:00 開演 (18:15 開場)  
電気文化会館地下 2 階 ザ・コンサートホール

名古屋市中区栄 2-2-5 TEL: 052-209-1121 地下鉄東山線 4 番出口 徒歩 4 分  
料金 (15歳以上) 全席 全席 全席 全席  
主催 名古屋フィルハーモニー交響楽団

チケットの予約状況  
全席 全席 全席 全席  
全席 全席 全席 全席  
全席 全席 全席 全席  
全席 全席 全席 全席

K269 は、ヴァイオリンと管弦楽のためのロンド 変ロ長調 で、オーボエ、ホルン各 2 本とヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バスという管弦楽をバックに独奏ヴァイオリンが軽やかに踊るように歌います。

K270 は、ディヴェルティメント 第 14 番 変ロ長調です。オーボエ、ホルン、ファゴット各 2 本と、管のみの小編成で、1777 年 1 月ザルツブルクでの作品です。アレグロ・モルト、アンダンティーノ、メヌエット、プレストの短い 4 楽章よりなり、演奏時間は 10 分余りの小曲です。

K271 は、ピアノ協奏曲 第 9 番 変ホ長調「ジュノーム」です。この曲は 1777 年 1 月にザルツブルクで作曲されたもので、オーボエ、ホルン各 2 本とヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バスの管弦楽をバックにピアノが朗々と歌います。同年 9 月に控えたパリ旅行に備えた作品のひとつであったと考えられています。という事は、相当の力を入れた作品という事で、私も早くから、1972 年 7 月にリスボンで録音された、マリア・ジョア・ピレシュのピアノ、テオドール・グシュルバウアー指揮グルベンキアン管弦楽団の演奏による、この名盤のおかげで、よく聴いてきました。



K272 は、レシタティーボとアリア「あ、予感がしていた」「あ、あなたはもう見たくない」です。オーボエ、ホルン各 2 本とヴァイオリン、ヴィオラ各 2 部、チェロ・バスの管弦楽をバックにソプラノが歌う、12 分ほどの曲で、1777 年 8 月プラハからザルツブルクに来て滞在していたヨゼファ・ドシェク夫人のために作曲されました。ドシェク夫人といえば、この時以来モーツァルトとの親交は終生続き、プラハ近郊の夫人の別荘



ベルトラムカ荘で、歌劇「ドン・ジョヴァンニ」で完成されたことでも知られています。この歌の歌詞は、パイジェルロのオペラ「アンドロメダ」の第 3 幕から採られたものです。今までに多かった外面的なダ・カーポ・アリアの形式を捨て、主役の純粋なドラマの一駒として心境を歌うという劇的な表現をした傑作です。この曲は恋愛



Josephs Duscheck (1754 - 1824)  
中のアロイジア・ヴェーバーに与えられ、パリからのアロイジアの手紙の中でも歌い方に細かな指示をしています。

Aloysia Weber (1760 頃 - 1839)

K273 は、昇階唱「主の母、聖マリア」は、ヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ・バス・オルガンに乗って、4 部合唱で歌われます。1779 年 9 月 9 日に作曲され、9 月 23 日のパリへの出発に先立って奉納された曲とも考えられています。短い曲ですが、晩年のアヴェ・ヴェルム・コルプス並ぶ傑作とアインシュタインは絶賛しています。

K274 は、教会ソナタ ト長調です。ヴァイオリン 2 部、オルガン、チェロ・バスで演奏されます。オルガンは従属的ですが、音楽自身が推進力にあふれた 4 分余りの軽快な音楽です。

K275 は、ミサ・ブレヴィス 変ロ長調です。ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス・オルガンに乗って、独唱 4 部と合唱で、演奏されます。1777 年の夏から秋にかけて、パリ旅行の前に作曲されたものと思われます。キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニユスデイの 6 曲よりなっており、演奏時間 20 分の曲です。

K276 は、聖母交唱 レジナ・チェリ ハ長調 です。1779 年にザルツブルクで、作曲されたといわれ、アレグロだけの単楽章で書かれています。オーボエ、トランペット各 2 本、ティンパニ、ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス・オルガンの管弦楽に 4 部の独唱と合唱が歌う、力強く生氣に満ちた音楽です。

K277 は、奉納唱「うるわし創造主なる神のおん母」へ長調 です。ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス・オルガンの管弦楽に、独唱と 4 部の合唱が歌う 1777 年夏の作で、これもパリ旅行前の奉納作品と考えられています。聖母マリアへの信頼と敬虔さに溢れた賛歌です。

K278 は、教会ソナタ ハ長調です。1777 年 4 月復活祭大祭日のために作曲されました。オーボエ、トランペット（クラリネット）各 2 本、弦 2 部、オルガン、チェロ・バス、ティンパニという編成ですが、提示部の反復が行われないので、演奏時間は 4 分弱と、長くはない。

K279 から K284 までは、ピアノソナタ 第 1 番から第 6 番とピアノソナタが続きます。最初の 5 曲は 1774 年の夏から秋にかけて、ザルツブルクで作曲されたとみられます。K284 は、1775 年 2 月から 3 月にかけてミュンヘンで作曲されました。

K279 は、ピアノソナタ 第 1 番 ハ長調です。アレグロ、アンダンテ、アレグロの 3 楽章からなり、演奏時間 13 分程ですが、とても魅力的で、落ち着いた音楽に、しばしうっとり聞き惚れます。

K280 は、ピアノソナタ 第 2 番 へ長調です。アレグロ・アッサイ、アダージョ、プレストの 3 楽章からなり、演奏時間 13 分余り、前曲と同じく、すべての楽章がソナタ形式で書かれています。特に第 2 楽章のゆったりと味わい深い音楽は冬に聞くとメランコリックな気分になる、傑作と思います。

K281 は、ピアノソナタ 第 3 番 変ロ長調です。アレグロ、アンダンテ・アモローソ、アレグロも 3 楽章からなり、演奏時間 14 分程です。

K282 は、ピアノソナタ 第 4 番 変ホ長調です。いきなりアダージョの第 1 楽章から始まり、メヌエット、アレグロの 3 楽章からなり、演奏時間は、13 分程です。

K283 は、ピアノソナタ 第 5 番 ト長調です。アレグロ、アンダンテ、プレストの 3 楽章からなり、いずれもソナタ形式です。演奏時間は 14 分程です。

K284 は、ピアノソナタ 第 6 番 ニ長調「デュルニッツ・ソナタ」です。アレグロ、アンダンテ、アンダンテの主題による変奏曲の 3 楽章よりなり、音楽愛好家のデュルニッツ男爵のために作曲されたもので、前の 5 曲のソナタに比べ、大きく飛躍を遂げた演奏時間 20 分程のダイナミックな音楽の画期的な作品です。

K285、K285a、K285b の 3 曲は、いずれも有名なフルート四重奏曲（フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ）で、1777 年のパリ旅行の途中、マンハイムで知り合った裕福なオランダ人でフルートをたしなむアマチュア音楽家ド・ジャンの依頼で作曲したもので、「ド・ジャンのためのフルート四重奏曲（3 曲）」と呼ばれることもあります。いずれもフルートが第 1 ヴァイオリンの役目をもって表に立ち、ヴァイオリンは第 2 ヴァイオリンの役目でフルートを助奏し、低音は伴奏に回っています。

K285 は、フルート四重奏曲 ニ長調 で、アレグロ、アダージョ、ロンドの 3 楽章よりなり、演奏時間 13 分程です。

K285a は、フルート四重奏曲 ト長調 で、アンダンテ、テンポ・ディ・メヌエットの 2 楽章

よりなり、演奏時間 10 分程です。

K285b は、フルート四重奏曲 ハ長調 で、アレグロ、アンダンティーノの主題による変奏曲の 2 楽章よりなる、演奏時間 15 分程の曲です。

(続く)